

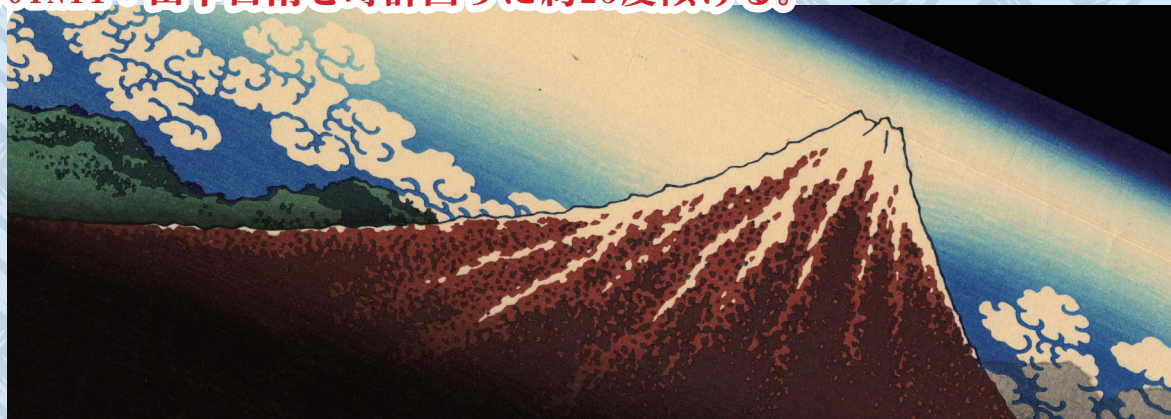
山下白雨はどの景色か？

山下白雨 富嶽三十六景(1831~1833)



山下白雨は葛飾北斎の富嶽三十六景の中で凱風快晴と同様にどこで描いたか意見が分かれる作品です。凱風快晴が赤富士と呼ばれるのに対し、山下白雨は黒富士と呼ばれ、白雨とは明空からのにわか雨(夕立)を想起させます。一般的な解釈として山頂の形状から、山梨側は御坂山塊、三ツ峠、新道峠の間、静岡側は富士宮市のどこかだろうと言われてきました。このように山頂に大きな特徴があるにもかかわらず、実際の風景とピッタリ一致した場所の特定が未だにできていませんでした。中には上空2,000mからの風景を想像して描いたというトンデモ説まで枚挙にいとまがありません。

POINT1: 山下白雨を時計回りに約25度傾ける。



山下白雨の富士山稜線には凹凸がたくさんあります。実はこの凹凸が重要で、完全に一致する場所が見つければ解決になるのですが今まで一致する場所は見つかりませんでした。

POINT2: 上画は柚野～芝川の山上の実際風景に良く一致する。



そのためこの凹凸は軽視され、なんとなく一致する程度で検証されてきた結果、従来の曖昧説の流布に繋がりました。しかし、上図のように基の画を傾けることで左の風景と一致することを発見しました。また検証のためライブカメラを設置し、雪形の一致も確認しました。

上画と実際風景を合成した画像。



実際の山中にてさらに詳細な場所を詰める。



取材で実際に訪問した山下白雨検証場所の空撮



甲州伊沢暁 富士三十六景(1831~1833)

甲州伊沢暁

2023年NHK総合の元日特別番組放送のため、山下白雨の描かれた場所を探す目的で下柚野地域山中に探査行しました。

探査・検証の結果、山下白雨の描かれた場所の特定はこれまた謎だった甲州伊沢暁に描かれた富士山の場所特定にも繋がり、取材で訪れた場所は両版画のスケッチの正確な場所判定を互いに補強しました。



左側稜線の凹凸重ね合わせ

35°13'59.24N - 138°33'02.87E

カシミールを用いた「山下白雨」視点位置のスケッチ図

北斎はこの場所のスケッチを各所で使用します

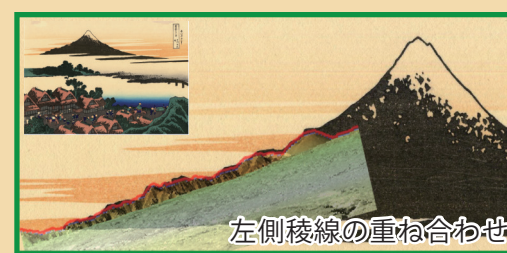
作者注: 左山並みの基は富士川河口沖の海上からの可能性もあり



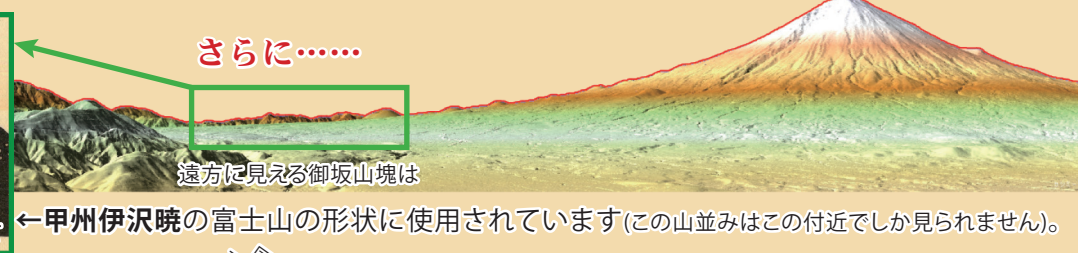
左山並みの重ね合わせ



山頂と山体の重ね合わせ



左側稜線の重ね合わせ



さらに……

遠方に見える御坂山塊は

←甲州伊沢暁の富士山の形状に使用されています(この山並みはこの付近でしか見られません)。



現在の石和から見える富士山
(大蔵経寺山登山道入口付近から)

画の近景は当時のこの付近から

山梨県石和(笛吹市)から見える富士山は実際には山頂部のみで北斎の版画のように見え、どこから描いたのか不明でしたが、ついに謎は解きました。



尾根反対側に見える富士川



山下白雨検証場所→

特定されたスケッチ場所は富士川水運停船場の稲子から芝川を結ぶ当時の山越え重要路でした。北斎は日蓮宗の路としてこの場所に立ち寄り富士山をスケッチしたのかもしれませんが。そして少なくとも二枚の版画を作成しました。



富士五湖ドットTV
fujigoko.TV
https://www.fujigoko.tv/
他の北斎視点詳細はこちらから。
記:久保寛